

式 辞

今年は桜前線が駆け足で日本列島を北上し、すでに県内各地で桜の花が満開となっております。本校でも、校舎南側のハナモモの花がきれいに紅色に咲き始めました。中国の詩人杜牧が「江南の春」で「千里鶯啼緑映紅」とうたったことが思い出されます。このように春本番を実感できる本日ここに、PTA会長畔野健司様をはじめとするご来賓の皆様と、保護者のみなさまのご臨席を賜り、平成三十年度入学式を挙行できますことに、厚く感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました美術科四十一名、普通科百六十名、総合学科八十名、計二百八十一名の新入生のみなさん、宮城野高校入学、おめでとうございます。

また、今日までこの上ない愛情をもってお子様の成長を支えてこられた保護者のみなさま、またご家族のみなさまに心よりお祝い申し上げます。

さて、新入生のみなさんに最初にしっかりと理解してほしいことがあります。それは、本校が本県教育改革の大きなうねりのもと、「個性化・多様化のための新しいタイプの高等学校」として平成七年に誕生したということです。教育活動の全分野にわたり、生徒の自主性・主体性を重んじる学校として、本校が誕生しました。「宮城野・・・ここでは一人ひとりが輝きます」。これを改革の一大テーマとし、真に一人ひとりが輝くために、「個性」重視の教育を推進してまいりました。

ところで、教育改革と言えば、先般文科省から高等学校の新しい学習指導要領が告示されました。そこでは、「主体的・対話的で深い学び」の実践が高くうたわれています。今後グローバル化や情報化がますます進む中で、従来の受け身的な、講義形式の授業からの脱却を一つに目指しているものと考えます。本校は、先ほど申し上げましたように、創立以来、生徒の自主性・主体性を尊重する教育を展開してきました。二十数年前に本校創立に関わった方々の先見の明に驚くとともに、本校の取り組みが今後の教育の大道をゆくものと確信するものであります。

その自主性・主体性を尊重する、本校の特色ある取り組みを少しばかり紹介したいと思います。

たとえば生徒企画による行事ですが、本校では最初から各行事があらかじめセットされているわけではありません。生徒が自ら企画して、体育的行事や文化的行事を作り上げる、そういうスタンスです。もろもろの行事においても、その都度ボランティアスタッフを募り、生徒の自治活動として運営されます。放課後活動においても、他の高校にあるような部活動の形態をとりません。生徒が自主的にサークル活動を組織し、生徒が自ら課題を発見し、考え、判断し、行動する力を養います。自立した集団の一員として、責任を担い、他の個性を尊重しながら、自らの個性を生かそうとする態度、社会性といったものを身につけられるよう、我々は支援してまいります。

みなさんは、今後、このように「自主性・主体性」を尊重する教育方針のもと、学校生活を送ることになります。自分の個性を思う存分、大いに磨いてほしいと思います。

ただし、気をつけてほしいのですが、「主体的・対話的で深い学び」にある「対話的」を忘れてはなりません。私自身、この対話的の中に、修正能力の高さをみなさんに期待したいと思います。様々な次元で存在する他者。その他者と対話する中で、自分の誤りに気づけば、素早く修正できる力、それも私は対話的な学びととらえます。昨今の日本や世界をめぐる情勢を見るにつけ、次の時代を担うみなさんに期待するのは、主体的であろうとすると同時に、対話的であろうとすること、そういうスタンスです。これを私は「二兎を追わず」という格言をもじって「あえて二兎を追う」と表現します。みなさんは厳しい入試をくぐりぬけて本校に入学してきました。「あえて二兎を追う」能力を誰もが持っていることを確信します。本校教育の中で、みなさんが高いレベルの「主体的・対話的で深い学び」を実践することを期待します。

さて、保護者のみなさま、ご家族のみなさま、ただ今申し上げたような本校の教育方針について、よろしくご理解とご支援をいただきたいと存じます。また高校時代とは、先ほど申し上げたように、人生の中で最も美しい時代であります。それぞれが社会的自立を果たすための厳しい訓練期間でもあります。学校と連携を深め、子どもたちを温かく見守り、しっかりと支えていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後にみなさんに紹介したいものがあります。本校正門に入って右側に大きな記念碑があります。創立当初に置かれたこの記念碑には、日本近代詩を語る上で欠かすことのできない島崎藤村の「藤村詩集」の序を引用し、このような一節が刻まれています。

明治二十九年の秋、私は仙臺へいつた あ東北の古い静かな都会で私は一年ばかりをおくつた
私の生涯はそこへ行って初めて夜が明けたやうな気がした。

そうして藤村は、「心の宿の宮城野よ」とこの宮城野への愛をうたいあげました。みなさんにとって本校が心の宿の宮城野となることを期待し、式辞といたします。

平成三十年四月九日

宮城県宮城野高等学校

校長 遠藤吉夫